

阿賀川に危機管理型水位計を設置、運用を開始します

○近年、増加する豪雨による河川氾濫の発生を受け、水位観測網の充実を図ることを目的とし危機管理型水位計が開発され、現在、設置する取組みが全国的に進められています。
(危機管理型水位計の概要は別紙1参照)

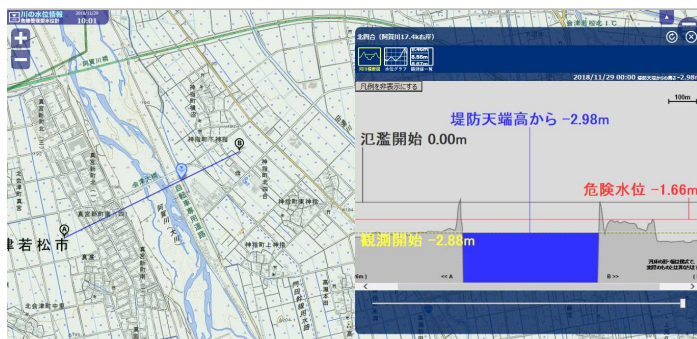
○阿賀川河川事務所においても、管理する阿賀川・日橋川・湯川に8基設置(別紙2参照)完了し、次期洪水に備え、
本日 12月3日より 運用を開始します。



○洪水時には既設の通常水位計(9箇所)の他、危機管理型水位計(8箇所)の観測で、よりきめ細やかな水位把握が可能となり、沿江市町村の適切な避難勧告等の発令や住民の避難に役立つ水位情報を提供します。

水位情報は下記サイトにて提供しています。(別紙3参照)

「川の水位情報」
<https://k.river.go.jp/>



洪水時に10分間隔で水位が表示されます。

【お問い合わせ先】 国土交通省 北陸地方整備局 阿賀川河川事務所
電話 0242-26-6441
副所長(技術) 鈴木 忠彦 (内線204)

危機管理型水位計の概要

【目的】

洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計を開発することで、これまで水位計の無かった河川や地先レベルでのきめ細やかな水位把握が必要な河川への水位計の普及を促進し、水位観測網の充実を図る。

【特徴】

- 長期間メンテナンスフリー（**無給電で5年以上稼働**）
- 省スペース（小型化）（橋梁等へ容易に設置が可能）
- 初期コストの低減
（洪水時のみの水位観測により、機器の小型化や電池及び通信機器等の技術開発によるコスト低減）
（**水位計本体費用は、100万円/台以下**）
- 維持管理コストの低減
（洪水時のみに特化した水位観測によりデータ量を低減し、IoT技術とあわせ**通信コストを縮減**）

開発された水位計の例



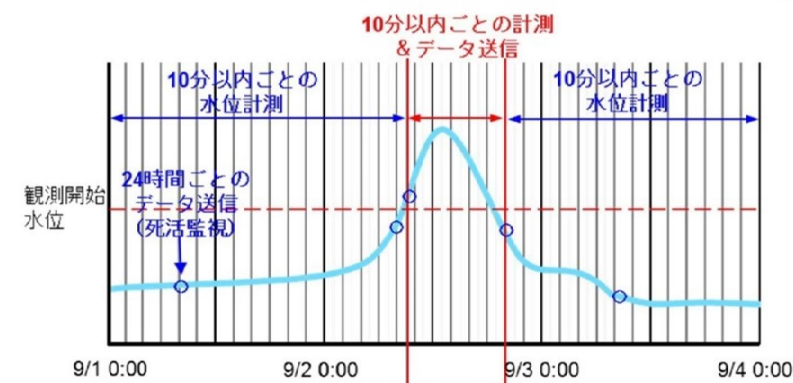
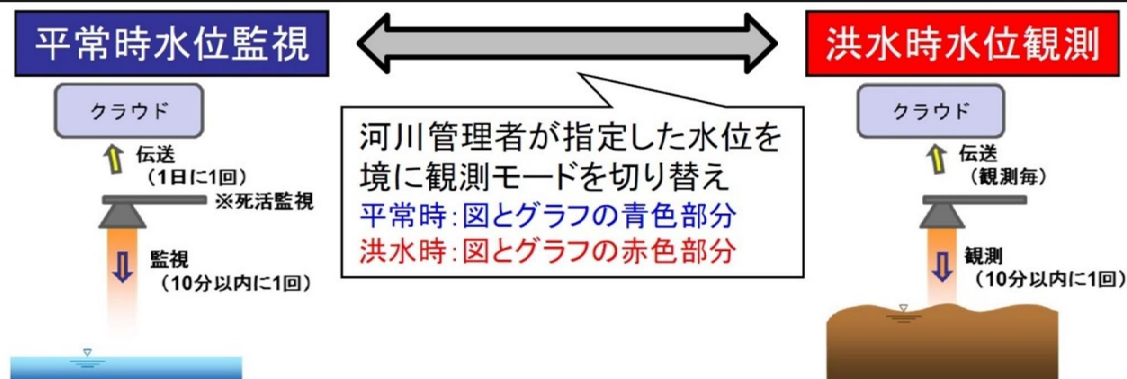
堤防に設置するタイプ
（ケーブル（計測器）を河川に入れて計測）



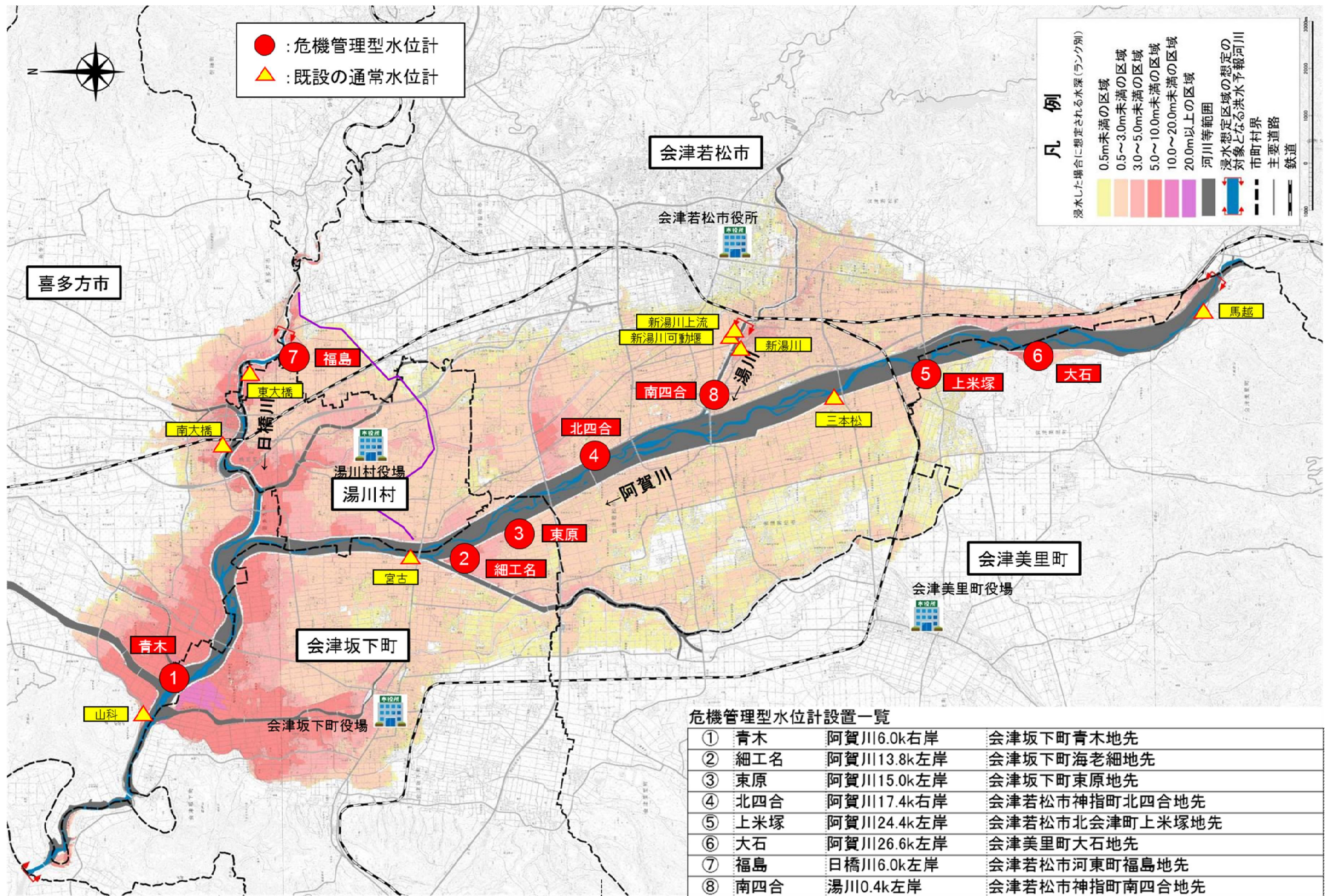
橋梁に設置するタイプ
（電波や超音波で河川に触れずに計測）

【水位観測方法】

一定の水位を超過した時に観測モードを切り替え、10分以内毎に水位データを送信。水位データはクラウドで閲覧可能。



水位監視	10分以内に1回	10分以内に1回	10分以内に1回
データ送信	なし	10分以内に1回	なし
死活監視	1日に1回 ※該当時刻データのみ		1日に1回 ※該当時刻データのみ



「川の水位情報」と「川の防災情報」の統合表示の本運用を開始

「川の水位情報」に「川の防災情報」に表示されている通常水位計の水位データと河川カメラの画像を統合表示しました。

➡ アクセスはこちらから <https://k.river.go.jp/> (パソコン・スマートフォン共通)



■ 3つの追加機能

①危機管理型水位計に加え、通常水位計や河川カメラが同一画面に表示されます。

(イメージ)



②リアルタイムの河川水位に対応して表示の色が変化し、危険度がわかります。



③河川カメラのアイコンを選択することで河川の状況が簡単にみられます。

(イメージ)

